

学科近況

沖縄高専は今年の4月で創立11年目を迎えました。3月には本科生39名と専攻科情報コース生2名が無事卒業しました。本年3月の卒業生は2期生以来4年ぶりに進路決定率が100%となりました。これは昨年からの景気の影響を受けたものですが、高専での学生の頑張りが社会に認められた結果であると思われます。4月には本科生41名、専攻科生4名を新たに迎えました。本科1年生には卒業までの5年間、入学時の夢や希望を実現出来るよう頑張ってもらいたいものです。また、一昨年から進めておりました学科内の教育設備の更新が終了し、メディアコンテンツ演習室に最新のパソコンが導入されました。一新された環境の元で教員一同学生への教育を行って参りますので是非ともご理解とご協力をお願いします。

（学科長：正木 忠勝）

各学年の話題（1年生）

1年生の生活も2ヶ月が経過します。慣れない環境に戸惑いながらも、学生はそれぞれの課題に向き合って頑張っていると思います。5月に各混合学級での個人面談が終わり、6月には学科担任が個人面談を行う予定です。今後予定されている学科別のLHRでは上級生との交流レクリエーションを行うのが恒例となっています。学科単位での学生同士および学生と教員との関わりはこれから少しずつ作っていくこととなります。

高専では、入学当初から専門的な学習内容があり、また、原級留置きの基準も高校に比べると厳しいため、学校での勉強に不安を感じる学生は少なくありません。毎年、中間試験の成績が出る頃には、進路変更を考える学生が出始めます。進路変更は、本人が決めることではありますが、学生が自分の現状や将来に迷いを持っている時は、情報を十分収集し、どの時点でどのような選択をすることが、自分の将来にとって有益なのか、ということを学生自身が冷静に考えて判断できるよう、情報提供、環境調整等、周囲が必要な支援をしていくことが重要です。5年間の課程は長いので、すべてをパーフェクトに修めなくても、原級留置きや休学の制度も活用しながら、マイペースで教育課程を修了できればよいと思います。また、高専を3年次まで修了すれば大学、短大、

専修学校を受験できますし、3年生までの学年で高校卒業程度認定試験に合格してその資格で大学等を受験する学生もいます。卒業後の進路も、高専で学んだ専門にとられる必要は全くありません。調べてみれば、意外に選択肢はたくさんあるものです。

高専では「専門教育」という言葉がよく出てきますが、学生の先の長い人生に役立ってこそ価値があると思います。学生を「専門」という枠にはめて形成するイメージではなく、「専門」を学生自身の人生の「スパイス」というイメージで捉えると、得るものも多いのではないかと思います。「専門性」の中味は時代とともに変わります。使い捨ての人材にならないためにも、勉強面でも、身体面でも、精神面でも、若い内に自分の生き方を貫くための「基礎」を作って欲しいと思います。J.F.ケネディ大統領から国防長官になるよう請われたマクナマラ氏（当時フォード社長）が「経験がない」と渋ったら「私も大統領の学校は出ていない」と切り返されたという逸話があります。真の専門家は、自分の専門性を自ら開拓しなければならないのかも知れません。学科の教育や進路のことで不安や疑問がありましたら、学科担任に遠慮なくご相談下さい。教育福祉推進室でも、学生・保護者の皆様からの相談をお待ちしています。（この記事は6月初旬に執筆しています）

（1年学科担任：西村 篤）

各学年の話題（2年生）

2年生にあがり、時間割に専門科目が一部含まれるようになりましたが、大部分はまだ一般科目の授業を受けます。また、2年生は混合学級で学校生活を送ります。このため、学級担任のクラス運営のもと勉学に励んでください。

専門科目の授業を通して、各自の専門性について思いをめぐらせてください。工学を学び、準学士として卒業します。卒業すれば、専門技術者として企業で活躍の場が与えられます。或いは、大学・専攻科でさらに専門性を高める取り組みを行います。

自分の専門性をどのように形成するのか、専門科目の授業を通して何を身につけることが出来るのか。よく考え、自らの専門性の思いをカタめていってください。自ら考え、自ら決めることが重要です。自分の得意の科目で専門性を形成するのも、一つのやり方です。自らの専門性をカタめれば、就活や進学の際の選択もスムーズに決まります。もし、専門性をよく考えた結果、メディアの専門科目では合わない、との考えに至れば、担任に相談してください。進路変更も一つの選択肢です。皆さんが充実した学校生活を送られることを祈ります。

（2年学科担任：姉崎 隆）

各学年の話題（3年生）

今年度は4月の下旬からメディア3年の全学生に個人面談を行っています。沖縄高専に入学時に学生が考えていた将来の夢は、高専の卒業後は、「システムエンジニア、自動車関係の仕事に就きたい」「プログラミングができる仕事をしたい」と漠然と考えていたようでした。しかし年を追って工学の基礎知識や、メディア情報工学科に不可欠なプログラミング技術やデータ工学などを学ぶ科目、さらに他の専門科目など学ばなければならないことが大幅に増え、今まで考えていた夢は生易しいことではないと、卒業後の進路に関して不安を感じる学生が多いことがわかりました。また就職は考えていても具体的な就職内容や希望企業・就職地域などはまだ決めていない、進学に関しても何を勉強したいのか、どこの大学に行きたいのかわからない、という状況の学生も多く見られました。その対策としてLHRの時間を

利用して、「卒業までの道のり」というテーマで進路についての説明を行いました。これからも学生の進路に関しては個人的な質問や相談などには随時対処し、必要であればクラス全体としても説明を再度行いたいと考えています。また、学生の就職や進学について保護者はどう考えているのか面談時に尋ねたところ、多くは「就職、進学のどちらにしても、学生自身の希望に任せる」と考える保護者が殆どのようなでした。保護者の皆様におかれましては、ご家庭で進路に関して話題が挙がった際には今までのご経験や幅広い知識を踏まえ、適切なアドバイス、ご指導を学生に提供していただきますようお願いいたします。ご質問、ご相談などがありましたら遠慮なくお話しください。

6月9～13日まで中間試験が行われました。ほっとしたいところですが気を緩めず、また暑くなりましたがしっかり体調管理を行って前期を乗り越えましょう。

（3年担任：バイティガ ザカリ）



写真：体育祭の集合写真（3年生）

各学年の話題（4年生）

学級状況

学科別クラスも2年目となり、落ち着いた雰囲気の中で新学期をスタートしました。4月の体育祭には学級旗賞を受賞し、より団結したクラスになりました。また、このクラスの多くの学生が、4月の情報処理技術者試験を受験したり、大学編入のための勉強をしたりして、やりたいことを行動に移す、といったプラス指向を持っています。4年生は比較的自由な時間

があるので、授業以外で何かしらの自分の能力・実力を高めるようにしてほしいと思い、クラス内でいつも話をしています。例えば、授業課題以外のプログラミングをして、より大きくて複雑なソフトウェア開発をするなどです。これをする事によって5年次の就職・進学活動での自己PR材料として使えるので、進路活動に有利になるでしょう。また、近年のグローバル化に伴い、英語能力も進路活動の材料として評価されます。沖縄高専には沢山の留学生がいます。国費留学4名、短期留学が前期8名、後期からは更に15名来る予定です。留学生達と友達になって英語で積極的にコミュニケーションをして、自分の英語能力を伸ばし欲しいと思います。そして、TOEICの試験も積極的に受験して高得点を獲得し進路活動の良い材料にして欲しいです。

このクラスの進路調査を行ったので以下に報告します。ただし、この調査は複数回答可能なため、数字の総和はクラスの数(36名)より大きいです。

高専→就職 28名

高専→専攻科→就職 6名

高専→専攻科→大学院→就職 2名

高専→3年次大学編入→就職 11名

高専→3年次大学編入→大学院→就職 2名

高専→3年次大学編入→大学院→博士→就職 2名

この数字を見ると、高専を卒業してすぐ就職したい人は多いのですが、これは例年通りです。注目したいのは、進学したい人が例年より多いということです。博士課程まで進学したい人も居るので、夢に向かって頑張りたいと思います。

現時点では様々な可能性を考える時期で、学生の考えが刻々と変化すると思いますが、保護者ともその考えを共有していただきたいと思います。

(4年担任：タンスリヤボン スリヨン)

インターンシップについて

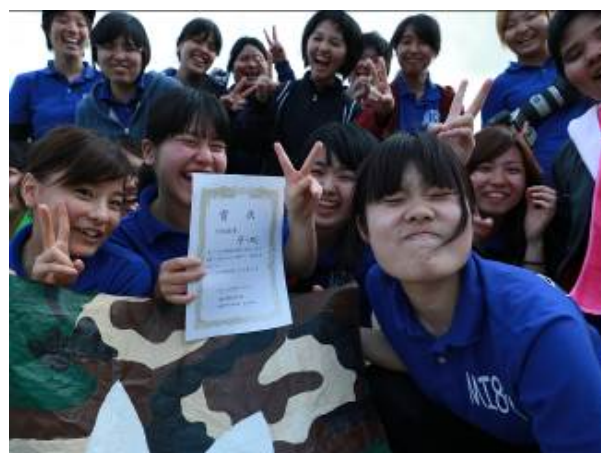
沖縄高専では、4年生を対象とする必修科目「インターンシップ」があります。これは、学内での講義や講演会、そして、県内外の協力企業等での就業体験を通して、学校では直接学ぶことのできない企業等での具体的な仕事内容や職場の雰囲気、「働く」ということがどういうことなのかなど、非常に多くの

ことを学ぶことができる科目です。とりわけ、重要なこととしては、社会の中で企業等が担っている役割とは何か、またその企業等において本校で学んだ専門知識や技術をどのように活かすことができるのかを、現場で仕事の体験をさせてもらいながら、実践を通じて直接学ぶことができる点が挙げられます。

今年度のインターンシップでは、8月11日(月)から9月23日(火)までの夏期休業中に2週間程度の就業体験をする予定です。6月現在までに、メディア情報工学科のインターンシップ履修生全員のインターンシップ先希望調査を終えております。今後の予定は、学科内、または学科間調整を行い、インターンシップ先を確定いたします。また、履歴書等の書類作成も同時進行で行ってまいります。

これまでの取り組みとしては、4年生全体に向けてのインターンシップ説明会、企業等の担当者によるインターンシップ企業説明会、そして、履歴書における志望動機、および自己PRの書き方の指導を行ってまいりました。今後さらに学校内で開催する予定のビジネスマナー講習会で社会人として恥ずかしくない身だしなみや挨拶の仕方などについて学びます。インターンシップが始まるまでには、更に企業研究を進め、学生1人1人にとって大変有意義なインターンシップとなるよう、指導してまいりたいと考えておりますので、保護者の皆様におかれましても、ご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(4年副担任：佐藤 尚)



写真：最優秀学級旗賞です。(4年生)

各学年の話題（5年生）

学級状況

本科の最終学年がスタートし、就職活動や進学準備に追われ落ち着かない時期を迎えています。また、本科で学んだ知識や技術を応用しながら1つの研究テーマに取り組む「卒業研究」も始まりました。卒業研究は配属された研究室単位で進められ、学生が研究に取り組む場所としての「研究室」が5年生の学校生活の拠点となっています。新学期開始時には、来年春に卒業するためにクラスで「全科目合格」（当たり前ですが、必要な科目すべて合格しなければ卒業できません）を誓ったところです。卒業まで気を抜かず、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。



写真：体育祭の一コマ。豪華な昼食ですね

進路の活動

6月12日現在で卒業見込者40名中、進路別希望は進学希望16名（40%）、就職希望24名（60%）です。そのうち大学・専攻科等に合格している学生は7名（43.8%）、就職先から内々定が通知されている学生は18名（72.7%）です。5年生の進路指導は、配属研究室の指導教員が個別に行っています。5年担任や本校キャリアアドバイザーがサポートすることもあります。いずれにしても、学生自身が「行動」をしなければ、内々定や合格を手にはできません。あきらめないことが進路決定のコツだと思います。また、就職や進学の学校推薦のためには「推薦願」に学生と保護者の自署が必要です。自署の際には「推薦願」に書かれている事項をよくお読みいただきますよう、お願いいたします。

（5年担任：太田 佐栄子）

専攻科の話題（情報工学コース）

現在、本学科には専攻科情報工学コースに1年生4名、2年生8名の合計12名の学生が所属しています。専攻科は本科と異なり、学生が自ら学ぶ場として位置づけられており、本科生のように教員から細かい指示を出すことはあまりありません。その分、自分で考え、課題を発見し、教員に報告・連絡・相談しながら研究活動をする必要があります。しかし、専攻科に進学して自分を見失ってしまう学生が少なからず見受けられます。専攻科での2年間を無駄にしないために、教員とコミュニケーションを絶やさず有意義な学生生活を送ってほしいです。

（コース長：正木 忠勝）

その他学科内の話題

資格試験合格者

基本情報処理技術者試験

3年メディア 小池 修司さん

3年メディア 西銘 政紀さん

4年メディア 喜屋武 愛理さん

編集後記

平成26年度の最初の学科だよりとなります。各学年の体育祭の写真を見て、たくましく育っていく教え子たちに感動もひとしおです。今後も学科教員一丸となって、教育活動に励んでいきたいと思えます。

学科だよりに関するご意見、学校に対してお持ちの疑問・要望などございましたら、是非下記連絡先までお知らせください。

編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905

沖縄工業高等専門学校

メディア情報工学科 玉城龍洋

TEL 0980-55-4173（代）

FAX 0980-55-4012（代）